

教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 塩谷勇直

編集 広報部

— も く じ —

◎会長あいさつ	1	◎全国研究大会(埼玉大会)	4・5
◎県教頭会・全国の動き		◎特色ある学校	6
定期総会・講演会	2	◎地区だより	7
全公教総会・全国専門部	3	◎ひろば・編集後記	8

教頭職に就いて

「初心にかえる」ことはできていますか

会長あいさつ

宇都宮市立上河内中学校 塩谷勇直



多くの人は、仕事や人生などに思い悩んだ時、「初心にかえる」ことをします。さて私たち教頭はいつ、どこにかえるのでしょうか。

新任教頭研修や地区教頭会に参加してよく耳にするのは「先生方から質問攻めで、『〇〇はどこにあるのですか。』『何でこの日は火曜日課なのですか。』『△△さんの保護者からの相談に何と答えたらよいですか。』『この日の休暇は特休で取ってもよいですか。』など、新任や転任したばかりの教頭にとって返答が困難なものばかりで嫌になってしまいます。」というご意見ですが、うっかり「そんなこと着任したばかりの私が分かる訳ないだろう。」と返答してしまったら、その後の教職員との人間関係は大変なことになるでしょう。

そこで、このような混乱した状況や、連日の遅くまでの勤務で仕事に嫌気がさした状況を改善するために、私たちは自分の役割を自覚したり、初心にかえるなどの方法で、気持ちを落ち着かせたり、気持ちを整理したりします。

しかし、教頭を数年経験し、勤務校に慣れてきても、「自分の仕事は誰かの役に立っているのだろうか。服務に関する事務処理はやっても何かに貢献していると思えない。」などと、憂鬱な毎日を送っている方も少なからずいることでしょう。そこで再び「初心にかえる」のですが、皆さんならどこにかえりますか。教員になったころ、困難を乗り越えたあの日、すばらしい教職員に廻り会えた時……。

初心にかえて、何かを始めた当初の純真な気持ちを改めて思い出し、自分がこの職やこの立場(教員や教頭や管理職など)に就いた本当の意味を問い直すことはとても大切だと思いますので、人によって異なる志を立てた当初に立ちかえったり、同じ職や立場に携わる仲間と苦労や喜びを共有したり、様々な課題に前向きに取り組んだりしてほしいと思います。その意味で、地区や県の教頭会の存在は、一人職とも言える教頭にとって意義があると思います。

ところで、このところ定期総会や研究大会等への会員の欠席増加が気になっております。大部分の方がやむを得ない事情であることは承知しておりますが、過去に参加した他都県の関プロ研究大会で思い出した場面があります。それは、1日を通した分科会の7名程度の班別研修で、主催都県の方が所用を理由に午前中で退席され(自分の班以外にも目立った)、午前中の協議が盛り上がった分、司会の方や退席された方とペアだった他都県の方の困惑した残念そうな顔が思い出されました。反面、駐車場・会場誘導や会場準備等の役割を終日地道にやっている方もおり、正直「主催都県の方の勤務校は、一日出張ができない程大変なのかな。かなり以前から分かっていた予定を調整できないのかな。」と思いました。と同時に、自分にも思い当たる場面が多々あったので反省させられました。

愚痴のような結びになってしまいましたが、今年度11月17日(金)研究大会を始め、平成30年11月8日(木)・9日(金)関プロ栃木大会に向けては、会員の皆様方の期待感があふれ、責任感のあるご参加やご支援を心待ちにしております。以上、あいさつとさせていただきます。

—— 県教頭会の動き ——

定期総会

第55回県教頭会総会 — 係を通して —

駐車場係 宇都宮市立五代小学校 菅原賢一

晴天に恵まれ、最高気温は30.2℃と暑い日になってしまいましたが、風が心地よい中、駐車場係7名で分担して駐車場係を行いました。私はとちぎ青少年センター南側の担当となり、スーツには似合わない帽子（合う帽子はありませんね）をかぶり、誘導しました。この日、他の団体も入っていましたが、教育会館敷地内に全員駐車することができました。

以前、駐車場係を担当された先生から、「文句や苦情はよくありますよ……。」と言われていたのですが、当日、駐車して車から降りてきた先生方が、「暑い中ご苦労様です。体に気を付けてください。」「今日は暑いですね。お疲れさまです。」などと声をかけてもらい、爽やかな気分で働かせていただきました。

日頃の学校での苦情処理や緊急出動などがない軽やかな心で、青空の下、心地よい風の中、トラブル等なく無事に終了することができました。皆様のご協力に感謝いたします。

講演会

直面する教育課題の現状と教頭職への期待

— 学校の組織運営改革の視点から —

元早稲田大学大学院客員教授 元全日本中学校長会会長 大江 近氏

宇都宮市立緑が丘小学校 大貫 孝

大江氏は、直面する様々な教育問題を、「ざっくり」「しっかり」お話された。アクティブラーニングである「主体的・対話的な深い学び」を会員自らが体験できるように、アクティビティを何度も取り入れ、握手での自己紹介や2人組のじゃんけんでの話合いなど、身近に使える手法もいれ、会場は和やかな雰囲気ながら、しっかり考えさせられる講演内容でした。以下、講演内容の一部を紹介します。

- 教頭にはたくさんのプレッシャーがあるが、自分は教師なんだということを忘れずに仕事をすることを期待している。
- 小中（幼）学習指導（教育）要領改正の概要として、社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメント等があるが、ポイントは何か、学校に求められていることは何かを考えることが必要である。
- 目標を地域社会と共有して、学校教育を通じて「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」が重要である。
- 「社会に開かれた教育課程」とは、目標を社会とどんな方法で共有するか、求められる資質・能力は何か、地域の人的・物的資源をどのように活用するかを管理職の指導性のもと作成していくことが大切である。
- カリキュラム・マネジメントの3側面は、各教科等の教育内容を相互の関係で捉えること、PDCAサイクルの確立、地域等の人的・物的資源の活用である。
- 道徳教育の質的転換は、「考え、議論する」道徳科である。道徳科の授業で道徳的価値理解、自己を見つめる、多面的・多角的思考、生き方について考えさせてほしい。
- 「次世代の学校・地域」創生を車の両輪として、中教審3答申の具体化を図るために、教頭は情報提供と企画を担う。
- 教員の資質能力の向上には教員制度の一体的改革が必要だが、校内ではOJT（見せる、聞く、させるの三要素）を充実させる。



— 全国の動き —

全公教総会

全国教頭会第59回総会において

全公教総務部副部長 宇都宮市立岡本北小学校 小野浩司

6月2日(金)東京都都市センターホテルにおいて、全国公立学校教頭会第59回定期総会と文部科学省主任視学官 清原洋一先生を講師とした研修会が実施されました。本県の総務部担当として参加しましたので、ご報告させていただきます。午前中は総会議事が進められ、平成28年度会長の池端庄一郎先生から今井功先生に引き継ぎが行われ、本年度の活動がスタートしました。まず、平成28年度の活動報告が本部・ブロック・専門部・運営誌編集委員会の順で行われ、続いて決算報告が行われました。平成29年度の活動案と予算案についても同様の報告が行われ、合わせて愛宕山地区再開発事業についての報告も行われました。その後、本年度の全国研究大会の開催県である埼玉県からのご案内があり、新役員の紹介と会長あいさつ等が行われ午前中の総会が終了しました。

午後の研修会では、「学習指導要領改訂の要点と管理職の在り方～中央教育審議会における議論から改訂として実施へ～」と題した清原先生のご講話がありました。中教審での議論から今後のスケジュールについて幼・小・中・高の各校種ごとの整理が示されました。さらに、教育理念として考えていく「社会に開かれた教育課程」を実現する、新しい学習指導要領の在り方についてのお話をいただきました。TIMSSやPISSAの実態や我が国を中心とした高校生の意識調査の結果などをもとに、教育課程の基準や理念について、学習指導要領改訂の方向性やポイントなどをもとにした提案がなされました。その中で、社会に開かれた教育課程として3つの観点が見られ、社会との連携・協働によりその実現がなされていくことを示唆されました。

研修終了後、総務部や研究部、編集部などに分かれ今年度の役員選出や活動計画などが話し合われ、総務部では、8月に開催される全国大会埼玉大会の第6分科会運営の準備等についての協議がなされ、今後の活動について検討が進められました。

全国専門部

全国公立学校教頭会研究部員活動報告

全公教研究部員 鹿沼市立みなみ小学校 小野典利

今年度、全公教の研究部員及び学校運営誌の編集委員として活動することになりました。

第1回研究部会に出られなかったため、不安なままのスタートとなりましたが、周りに助けられながら仕事を進めています。

7月6日と7日に第1回全国研究部長会が開かれました。第1日目には、長島研究部長から第11期「全国統一研究主題・研究の重点」及び「全国共通研究課題」について説明がありました。継続性、協働性、関与性に焦点をあてた実践的研究を行うことが大切であると強調されていました。その後、國學院大学の田村学先生から「主体的・対話的で深い学び～カリキュラム・マネジメントを中心に～」についての講話がありました。具体的で分かりやすく、すぐ教育現場に役立てることができる内容でした。著作権の関係で資料は全公教のHPにアップされませんが、独立行政法人教職員支援機構のHPで田村氏の話が拝聴できます。夕方からは、情報交換会が開かれ、全国の教頭先生と交流を深めることができ、有意義な時間を過ごすことができました。2日目は、今年度の埼玉全国大会と来年度の北海道全国大会の進捗状況についての説明が行われました。その後、ブロック別懇談会において、各都道府県の取組について情報交換が行われました。どのブロックでも、毎年会員が入れ替わってしまうため、研究の継続性に苦慮しているという意見が出されていました。



【全公教第1回全国研究部長会】

最後になりましたが、栃木県では『学校運営』がほとんど購読されていません。教頭職の日々の仕事に役立つように編集されていますので、是非一度目を通してみてはいかがでしょうか。よろしくお祈りします。

—— 全国研究大会（埼玉大会） ——

記念講演

大会に参加して（シンポジウム）

さくら市立氏家中学校 石山 秀明

8月2日～4日、約3,000名の教頭・副校長が参加し、第59回全国公立学校教頭会埼玉大会が開催されました。開会行事の後に行われた全体シンポジウムでは、「きめ細かで質の高い教育を推進し、未来へ飛躍するグローバル人材の育成をめざして」と題して、コーディネーター 杉田洋氏（國學院大學教授）、シンポジストに勝野正章氏（東京大学大学院教授）、小島奈津子氏（フリーアナウンサー）、佐々木則夫氏（元日本女子サッカー代表監督）が、それぞれの立場から主張を論じました。

特にグローバル社会に生きていくための重要なポイントとして、杉田氏からは「差異を受け入れること」が重要とし、特別活動や道徳の時間を通じた実践例を紹介し、他との関わりの中で「世界平和を目指すこと」と助言いただきました。勝野氏は、英語コミュニケーション能力の育成や主体性・責任感等の必要性を助言いただくとともに、能力は意欲があって育成されるとも話されました。小島氏は職業の経験から、人の話を聞くことの必要性とそれに対する即座の対応がとても重要であったと話されました。佐々木氏は、タフでクリエイティブな選手の育成が日本のサッカー界の発展につながると数十年前から計画的に実践しているとのことでした。また、創造的な人材が必要であると話されていました。

最後に我々教頭・副校長がゆとりをもって、「グローバル化」を意識して学んでいくことが大切であると助言いただきました。



「ニュートリノの小さな質量～神岡地下での研究～」を聴いて

真岡市立真岡東中学校 古澤 英明

大会三日目、東京大学特別栄誉教授・同宇宙線研究所長 梶田隆章氏を講師に迎え記念講演が開催されました。埼玉スーパーアリーナ大型モニターに写された梶田氏の優しい眼差し、凜とした姿勢から、奥深い研究の講演へと導かれていきました。学術講演に近い内容のため最初に幾つかのキーワードを紹介いたします。

ニュートリノ：素粒子、電子から電荷と質量を除いたような粒子。質量はないといわれた。
小柴昌俊氏：2002年ノーベル物理学賞受賞（ニュートリノ発見）、カミオカンデ提唱製作。
カミオカンデ：KAMIOKA Nucleon Decay Experiment の略 岐阜県吉城郡神岡町地下1000m



梶田氏が物理学に深い興味を抱いたのは大学での授業だったそうです。勘違いしている方々が多数だと思われそうですが、物理の神髄は「理論よりも、正確なデータを得るための装置の開発」だそうです。理論よりも、身体を動かすことを学びに繋げることを理想とする梶田氏には天職との出会いだったようです。後、東京大学大学院進学時、カミオカンデ構想を擁す小柴研究所で学ぶ運命的な出会いに今でも感謝していると、感慨深げに言っていたことが深く印象に残っています。

カミオカンデ本来の目的は、陽子の崩壊を見つけることだが、偶然にもニュートリノの発見、さらには僅かだが質量をもつことに繋がった。今後の日本を支える子どもたちには、「科学研究と偶然の面白さ」「自然を純粹に不思議と思ひ調べること」を伝え続けたい。そして最後に、当時世界と競い合っていた神岡町地下1000mでは、「世界各国の研究者が集い宇宙の謎を解き明かそうと日々共同研究していること」と、講演を締めくくったことが印象的でした。

全国埼玉大会提言を終えて

鹿沼市立津田小学校 茅 島 拓

8月3日(休)に平成29年度第59回全国公立学校教頭会研究大会埼玉大会に提言者として参加しました。参加者380名の前で第4分科会「組織運営に関する課題」に「学校運営の活性化を図るための組織・運営のあり方～「見える」「わかる」組織運営に向けた取組～」のテーマで臨みました。さいたまスーパーアリーナ（コミュニティアリーナ）の特設ステージでの提言は正にライブ会場のような雰囲気であり、足が震えましたが、あまりの参加者の多さに、全員が視界に入りきらず、逆に緊張感もほどけ、何とか提言を終えることができました。

指導者の先生方や参観された先生方からは、「見える」「わかる」によって業務改善や学校運営の参画意識が高まるといったこと、逆にマニュアル化しすぎると、教職員の自主性が育たないといった点を指導していただきました。また役割の明確化や管理職からの適切な評価、業務を継続して任せることが、一人ひとりを伸ばすことにつながるなどたくさんの示唆をいただきました。



こうした貴重な体験をさせていただくことができましたのも、上都賀地区の研究部の皆さんによる豊富な研究の累積とバックアップがあったからです。夏季休業中も何日も研修日を設けてくださり、プレゼンテーションの細かな点まで教えていただきました。昨年度の県の提言の折にも、それぞれの持ち場でご協力いただき、安心して取り組みました。

上都賀地区教頭会、同研究部の協働体制、組織力により、自分自身も多くのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。

全国公立学校教頭会全国大会（特Ⅱ分科会）に参加して

日光市立中宮祠小学校 鈴木正彦

特Ⅱ分科会

「子どもが学校で倒れたとき、子どもたちの命を守るために～A S U K Aモデルへの想い」

講師 桐淵 博 先生（埼玉大学教授 さいたま市政策アドバイザー 前さいたま市教育長）

講師 桐田 寿子 先生（さいたま市A S U K Aモデル関係ご遺族）



特別課題（開催地の創意を生かした課題）Ⅱに参加させていただきました。この分科会では、平成23年9月に駅伝の課外活動中に倒れて亡くなった桐田明日香さんのご遺族がA S U K Aモデルを作るまでに至った経緯をお話しになりました。さらに、その事故当時さいたま市教育長だった桐淵先生から、現在までの概要の説明がありました。これらのお話を聞いて、事故があまりにも身近に起こること、その場での初期対応がいかに大切なこと、そして、遺族への誠意ある対応が必要なことを痛感しました。各班では、緊急時の対応に関して、それぞれの県や地域で実施されている内容を発表した後、教職員の危機意識などの課題について話し合いました。この分科会への参加者は、300人ほどでしたが、講師の先生のお話を聞いた後だったこともあり、非常に真剣な話し合いが、各グループで行われていました。最後に、前さいたま市教育長の桐淵先生が言われた「お子さんをご家庭に元気に返すことができなくて申し訳なかった。」と謝罪したこと、このことに関して、学校はまず謝罪をするべきであり、謝罪したことによって遺族の心に寄り添うことができるだけでなく、その後の対応なども大きく変わってくること、さらに、謝罪したことで法的な責任を負うものではないこと、が大きく心に残りました。この分科会に参加させていただいたことは、非常に役立ったと思いました。

タルサコミュニティカレッジとの交流

宇都宮市立清原北小学校 青柳文男

本校は宇都宮市の北東部に位置する児童数120名ほどの小さな学校です。小規模特認校として新たなスタートを切った平成17年度から、宇都宮市の姉妹都市であるタルサ市のタルサコミュニティカレッジの学生さんとの交流を続けています。

今年度も5月に10名ほどの学生さんが来校しました。はじめに体育館で全校児童が「ウェルカムセレモニー」でお迎えしました。「幸せなら手をたたこう」の英語版を歌ったり、「じゃんけん列車」などのゲームをしたりして交流しました。最後はタルサの学生さんたちが準備してきた音楽に合わせてダンスを踊ってくださり、子どもたちもまねして楽しく踊りました。

次に4、5、6年の各学級に分かれて入っていただき、お習字や墨絵などを体験していただきました。相手の名前を聞いて漢字を当てて、それを書いて渡した学年もあり、大変喜んでいただきました。

その後の給食はランチルームで全校生と一緒に食べていただきました。昼休み後のお掃除にも参加していただきました。自分たちの学校を子どもたち自身が掃除する習慣は、彼らにとって新鮮だったようです。

午後は1、2、3年生と折り紙を楽しんでいただきました。かぶと、紙でっぽう、跳ねるカエルなどを作り、一緒に遊びました。身近な距離で折り方を教えたり、教えられたりして、身振り手振りの生きた交流の姿が見られました。



育てよう みんなの緑と 豊かな心

真岡市立大内東小学校 関本辰男

大内東小学校は真岡市の北東部に位置し、平地林と田畑に囲まれた豊かな自然に恵まれた学校です。本校は約1haの学校林や約5aの学校田を校外に、約3aの畑を学校敷地内に有し、学習活動や学校行事等で、計画的かつ主体的に自然体験活動を教育課程に取り入れています。

学校林では、総合的な学習の時間や生活科、理科や図工等の学習で、全学年が第二の教室として様々な体験的学習の場として年間を通して活用しています。また、全校生による縦割り班での学校林清掃やPTAによる下草刈り等で環境整備を行っています。学校田では4、5年生が田植えや稲刈り、脱穀の体験をし、特に5年生は社会科の米づくりの学習と関連させ学習効果を高めています。また、学校の畑には全学年の区画があり、始業前に多くの児童が自主的に訪れ、生活科や理科の学習で育てている植物や野菜の観察や世話をしながら、日々生長する植物を目の当たりにしています。このような恵まれた環境のもと、情操教育の一端として自然に親しみ、緑を愛する豊かな心を涵養しています。



これらの活動が認められ、平成27年度には全国学校関係緑化コンクール学校林活動の部で「特選」を受賞し、翌28年度の全国育樹祭では緑の少年団発表大会で「みどりの奨励賞」を受賞しました。また、これらの活動を陰からサポートしてきた本校PTAが、全国学校関係緑化コンクールで「協力賞」を受賞するなど、立て続けに全国上位の賞を受賞できました。今後も、学校、保護者、地域が一体となって、この貴重な教育資源を大切に、そして最大限に活用して、子どもたちの健全育成を図っていききたいと思います。

地域とともにある教頭会

南那須小中学校教頭会長 綱 川 裕 治

南那須地区小中学校教頭会は、那須烏山市・那珂川町の小学校9校、中学校4校の教頭13名で組織されています。本会は教育委員会、南那須校長会と連携し本地区教育の進展に寄与し、また教頭相互の研修、親睦を図ることを目的としています。総会1回と研修会4回を実施します。4月の総会では、本部役員と研修部長などを選出しました。選出方法は、年度毎に市町交互に役割分担をしています。5月の研修会は、県教頭会の研究課題「PTA及び地域社会に関する課題」について、外部講師による講話をしていただきました。この講話をもとに、研究の方針や内容について話し合いました。6月は、各学校の実践例を持ち寄り、「地域や家庭の変化に対応したPTA・地域連携活動の実践」について検討会を行いました。そして、9月は県研究大会の発表リハーサルを計画しています。2月の研修会は、次年度の研究大会に向けて研究の課題と成果を話し合うことになっています。平成30年度は関プロ栃木大会での発表、31年度は関プロ新潟大会での発表があります。一日一日の積み重ねをとおして成果と課題をまとめていきたいと思えます。

継続研修として、「地域とともにある学校づくり」をテーマとした講演会を行っています。昨年度は「里山の恵を活かした地域づくり」を演題に、古民家おおぎすでお話を伺いました。ほたる、オオムラサキ、そばの花などを地域素材として学校の教材に取り込む機会をいただき、実践に結びつけています。今年度は5月に講演会を実施しましたが、今後も地域のよさを発見する研修を続けていきます。



佐野地区小中学校教頭会の取組

佐野地区小中学校教頭会長 飯 田 薫

佐野地区小中学校教頭会は、小学校26名、中学校10名、計36名で組織されています。本市は市内の大規模校を始め、中山間地には小規模校の小学校も多く、研修会においては、学校規模でグループを作り情報交換を行ったり、課題について話し合ったりするなど研鑽を積んでいます。

また、本市では、児童生徒の学力・体力のさらなる向上、中一ギャップへの対応、複式学級を含む小中学校の適正配置に関する課題の解消を目指して、平成25年度から、市内全中学校区における小中一貫教育の実施に向け小中連携や小中連携に取り組んでいます。

そこで、本市の教頭会では、各学校における地域や家庭、小中一貫教育推進ブロック（各中学校区）での連携の実情や課題を把握し、教頭としてどのようにかかわったらよいかを考察し、学校間連携や地域連携を組織的・効果的・効率的に推進できるようにすることをねらいとして、平成26年度から研究に取り組み、昨年度、全国公立学校教頭会研究大会徳島大会において提言してまいりました。また、小中一貫教育を「義務教育9年間の連続した学びの中で、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を図る教育」と捉え、中学校区の小・中学校が、共通の育てたい児童生徒像を共有しながら、共同で推進しています。

本年度から、『子どもの発達視点』で、本市における小中一貫教育を見直し、実態の把握と課題について考察し、さらなる小中一貫教育の推進を図ることとしました。具体的には、(1)中学校区ごとに『グランドデザインの作成』をする。(2)『小中連携支援シート』のさらなる活用を図る。(3)学習内容のつながりを意識した授業の展開を図る。(4)小中の指導のつながりを保護者に意識をもたせるため家庭とのつながりを深める。等について、教頭としてどのように関わったらよいかを考察することにより、小中学校間の連携を組織的・効果的・効率的に推進できるか研究したいと考えています。

彫刻をつくること

鹿沼市立栗野中学校 田 中 茂

美術を志した学生時代、上野の美術館でブルデルの作品の前で立ち尽くし、自然に涙がでてきた経験があります。その作品は、母子像で左手に我が子を抱き、右手には大砲を抱えていました。なんとも言えない心の動揺がありました。それから、彫刻をはじめようと決心したことを覚えています。

教員になってからは、教師と彫刻家の二重生活を送っています。早、35年がたちました。目の前の大木を眺めていると語りかけてくるような気がします。生命の力、大地や水や風など自然の持つエネルギーが伝わってきます。人間の考えが及ばない偉大なる神が潜んでいるに違いないと考えるようになりました。自然の中に潜む「神」を形にしてみたい。そんな考えで彫刻作品を制作しています。



現在は、一般社団法人二紀会の審査員、日本陶彫会事務局、栃木県彫刻造形協会会長等務めており、多くの仲間と共に活動をしています。作品づくりを通して、人としての成長や豊かな心を育むことの大切さを学びました。

児童自立支援とは

矢板市立矢板中学校沢分校 佐藤 明彦

児童自立支援施設内学校に勤務し、児童福祉について日々学ばせてもらっています。最初に「児童」についてです。学校教育の現場では「児童」＝「小学生」ですが、児童福祉の現場では18歳以下まですべて児童福祉法の「児童」であり、「生徒」という言葉は存在しないのです。

児童自立支援施設（栃木県は那須学園）は児童福祉法に「不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童を入所させ、（略）個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援し、（略）」とあり、「教護院」の時代から100年を越す歴史があります。現在は国立2施設（男子：武蔵野学院、女子：きぬ川学院（さくら市））、公立54施設、私立2施設が開設されています。

通常の学校生活ではほぼ交流することのなかった、児童福祉法に携わる児童相談所や保護司の人たち、少年犯罪に携わる裁判所や少年院の人たちと交流し意見を交わすことで児童自立支援について少しでも貢献できればと思っている毎日です。

入所する児童は「この子さえ……」ばかりです。児童・生徒指導の宝庫です。校内研修として、また異業種体験研修として那須学園を選んでみてはいかがでしょうか。

脱ブラック企業

足利市立毛野中学校 青柳 和宏

先日の新聞に、過労死レベルの超過勤務時間の記事が載っていました。中学校の教職員の6割近くが過労死ラインを超えているという記事に愕然としました。特に教頭の平均労働時間は、12時間を超えていました。自分の生活を振り返ってみると、確かにその通りなのです。今まで、自分の学校生活がデッドラインを超えているという認識はありませんでした。記事を読んで、どうすればライン内で仕事を終わらせるかを考えてみました。しかし、仕事の段取りを考え、どうシミュレーションしても、なかなかライン内で終わることはできません。担任、部活動を抱える先生方は、もっと難しい状況でした。

世界一のブラック企業などと言われ、それを管理する側に回り、問題だなどと思ったのは、先生方に働き過ぎているという認識が無いことです。もちろん自分も含まれます。「早く帰りましょう。」と毎日繰り返す中、仕事途中で帰る職員のストレス、楽しそうに談笑しながら仕事をする若者、人によって様々です。臨機応変にメリハリをつけること、概念を捨て仕事を精選すること等、いろいろなことを試す中、やはり自分の時間を大切にすることを実践してみせることが重要だと思いました。ああなりたいと思われる先人になりたいものです。

編集後記

平成30年度の関ブロ栃木大会に向けて、各地区の皆様も夏休みから研究を進めているなど聞こえてまいります。どんな困難にも立ち向かう皆様に、心から敬意を表します。

さて、今回の会報では、定期総会や各部の活動、埼玉県で開催された全国大会等について掲載させていただきました。

学校を取り巻く環境は日々変化し、対応に追われる今日この頃ですが、当会報が少しでも会員の皆様の参考になれば幸いです。

末文ですが、ご多用中にも関わらず原稿をご執筆くださいました皆様に深く感謝申し上げます。（清水）